

ラテンアメリカ地域研究のための基本文献

<事典>

- 大貫良夫・落合一泰・国本伊代・恒川恵市・松下洋・福嶋正徳（監修）『[新版ラテンアメリカを知る事典](#)』平凡社、2013年

日本ではなじみのある地域といえないラテンアメリカについて、最新の知見を反映した便利な事典。

<入門・概説書>

- 増田義郎『[物語ラテン・アメリカの歴史](#)』中公新書、1998年

ラテンアメリカ史の重鎮の書いた入門書であり、読みやすいもののその内容は深い。

- 堀坂浩太郎『[ブラジル：跳躍の軌跡](#)』岩波新書、2012年

現代ブラジルの入門書。先行研究を踏まえつつ、民主化後のブラジル社会の変容を鮮やかに描いている。

- 西島章次・小池洋一（編）『[現代ラテンアメリカ経済論](#)』ミネルヴァ書房、2011年

日本におけるラテンアメリカ経済に関する優れた概説書。経済に関心のある学生は、本書を出発点としてほしい。

- Patrice Franko, [The Puzzle of Latin American Economic Development \(Third Edition\)](#), Rowman & Littlefield Pub, 2007

★図書館では [第2版 \(2003年刊行\)](#) も所蔵

理論を応用することよりも複雑な現実をきちんと理解することに重点をおいたラテンアメリカ経済の教科書。英語だがスラスラ読める。

- Thomas E. Skidmore, Peter H. Smith, James N. Green, [Modern Latin America \(Seventh Edition\)](#), Oxford University Press, 2010

★図書館では、[第2版 \(1989年刊行\)](#)、[第3版 \(1992年刊行\)](#) も所蔵

アメリカ合衆国の大学で使われているラテンアメリカ地域研究の教科書。レベルの高い概説書として挑戦して欲しい。

<通史>

- 高橋均・網野徹哉『[世界の歴史 18—ラテンアメリカ文明の興亡](#)』中公文庫、2009年

★図書館では [単行本 \(1997年出版\)](#) を所蔵

先植民地期から21世紀までをカバーする600頁近い大著だが、歴史を学ぶことは専門性を問わず地域研究の大前提であり、みんなに勧めたい一冊。

- ボリス・ファウスト（鈴木茂訳）『[ブラジル史 \(世界歴史叢書\)](#)』明石書店、2008年

これも500頁を超える大著だが、日本語で本格的なブラジル通史を読める私たちは幸せである。

- フェルナンド・エンリケ・カルドーン、エンソ・ファレット (鈴木茂ほか訳) 『[ラテンアメリカにおける従属と発展—グローバリゼーションの歴史社会学](#)』東京外国語大学出版会、2012年

ラテンアメリカのような開発途上地域は、先進地域が辿ったのとは違う不利を抱えているという従属論的な認識に立ちつつも、各国の政治制度や政治主体のあり様次第で発展は異なるパターンを取り得ることを示した名著。

<専論・研究書>

- 恒川恵市『[比較政治 中南米](#)』放送大学教育振興会、2008年

ポピュリズム、軍政と民主化、先住民運動の影響といったラテンアメリカ政治の論点を、正確な事実認識と柔軟な分析枠組に基づいて、説明している。教科書だがその水準は高い。

- 今福龍太『[クレオール主義](#)』ちくま学芸文庫、2003年

アメリカ合衆国や日本では、識者のイデオロギーを問わず、ラテンアメリカの文化は遅れているないし逸脱したものとみなされがちである。だが、自由な着眼によってそこに積極的な可能性を見出す刺激的な一冊。

- 清水透『[エル・チチョンの怒り—メキシコにおける近代とアイデンティティ](#)』東京大学出版会、1988年

長期のフィールドワークを通じて質的な資料を収集しつつも、「研究者＝解釈し操作する主体、先住民＝解釈され操作される客体」という関係性を超えた人類学を目指した野心作。

- アルバート・ハーシュマン (矢野修一ほか訳) 『[連帯経済の可能性—ラテンアメリカにおける草の根の経験](#)』法政大学出版局、2008年

新自由主義への建設的な批判をするにあたってヒントに満ち溢れたハーシュマンの業績の中で、アクセスしやすい一冊。

- Eric Wolf, [Pathways of Power: Building an Anthropology of the Modern World](#), University of California Press, 2001

マルクス主義を洗練させつつ、小農研究と先住民研究で大きな功績を残した人類学者の論文集。古びた部分はあるものの、古典とは格闘する価値がある。

(2013年12月 受田宏之)